四谷の千枚田だより

第 266 号

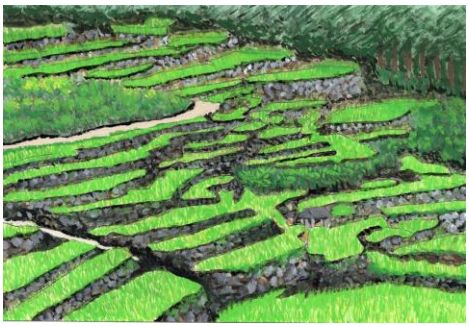
四谷の千枚田絵画コンクール入賞作品の紹介

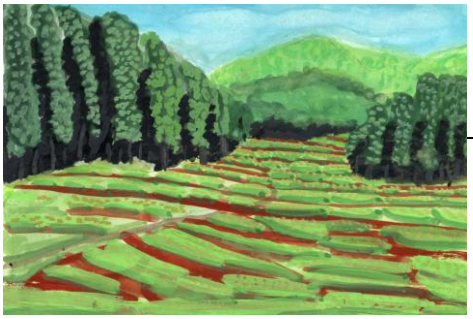
「２０２５年四谷の千枚田絵画コンクール」（鞍掛山麓千枚田保存会・東三河郵便局主催 新城市・新城市教育委員会・新城市観光協会・奥三河観光協議会・東愛知新聞社・東日新聞社後援）の入賞作品が決まった。

審査は十月二十三日、旧連谷小学校で中川克夫審査委員長・東三河郵便局・市教育委員会・保存会などの関係者七人が審査に当たった。

審査に当たり中川審査委員長は「八年委員長を務めるが、年々うまくなっている」また、保存会長は「子どもが感心を持ってくれれば、大人もついてくる。まとまって来てくれる学校もあり、ありがたい」と感謝した。応募作品は東三河や名古屋市、浜松市などの小中学生から四百九十九点の応募があり、最優秀賞五名、優秀賞十名、入賞三十五名を選んだ。

入賞作品は長篠郵便局 十一月七日～二十七日（受賞作品）、市民センターほうらい 十一月七日～二十七日（受賞作品を除く）、鳳来寺郵便局 十二月一日～二十四日（受賞作品）、鳳来寺観来館 来年一月四日～二十九日（全作品）、奥三河郷土館 二月十二日～二十六日（全作品）、市役所ロビー三月二日～十二日（受賞作品）、山びこの丘ロビー三月十四日～二十九日（受賞作品）、八雲だんご直売所四月三日～十九日（受賞作品）で展示予定。（写真は最優秀賞者 上から中野さん 小野さん 中根さん 森下さん 山下さん）





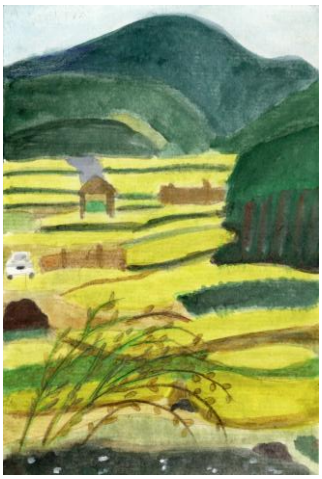
最優秀賞 五名
中野由菜（豊橋市高豊中三年） 小野仁（豊橋市栄小四年） 中根光翼（名古屋市西山小三年） 森下円香（名古屋市名東小六年） 山下 孝太（新城市鳳来寺小四年）

優秀賞 十名
西中心那（名古屋市高見小四年）森川夏海（名古屋市神丘中二年）富永紬生（新城市鳳来中部小一年）竹内依真（名古屋市春岡小一年）
早川愛莉（新城市千郷小四年）谷野かなみ（新城市新城小二年）原田征史朗（新城市東郷中三年）大内来未（新城市鳳来中三年）山田勘太（新城市鳳来寺小六年）西口愛空（新城市千郷中三年）

入賞者 三十五名
都丸結世（長久手市北小二年）谷口日菜詩（名古屋市西山小五年）下山虎次郎（新城市東陽小三年）竹中 翼（高槻市清水小一年）かたやまありな（新城市鳳来中部小二年）岡 駿汰（新城市千郷小四年）佐野結衣菜（江南市古知野小一年）湯浅仁乃（名古屋市極楽小四年）新川未理（名古屋市西山小四年）新川由依（新城市鳳来中部小三年）安形友葵（新城市東郷西小三年）入谷幸斗（新城市東郷東小二年）原田 和（新城市鳳来寺小五年）鈴木ふみ香（新城市鳳来東小一年）森田真広（新城市千郷小三年）分部莉彩（宇都宮市宇都宮大学共同教育学部附属中一年）安形咲那（新城市八名中三年）武田萌花（新城市新城中二年）浅野杏実（新城市千郷小三年）平井文乃（名古屋市東桜小五年）小山結愛（新城市千郷小四年）鈴木勘太（新城市東陽小三年）河合千愛（新城市作手小六年）坂田 梓（新城市作手小六年）丸山結花（新城市鳳来寺小五年）林 美羽（新城市鳳来中部小三年）遠山夏絆（新城市鳳来中部小五年）梶村彩羽（新城市鳳来中三年）豊田結羽（新城市千郷小四年）神谷栞乃子（名古屋市西山小六年）藤野 うらら（新城市千郷小四年）鈴木仁綺（新城市鳳来中部小六年）春日井 蘭（名古屋市西山小四年）渡邉來桜（新城市作手小六年）

商品は順位に応じ新米、五平餅セット、図書券などをお届けした。

「四谷の千枚田絵画コンクール」は豊橋市の「八雲だんご」でお馴染みの（株）丸八製菓さんの多大なご支援を戴いて、毎年 開催しております。



収穫感謝祭

～さぁ つかまい 感謝を込めて 餅つきを～

開催期日　令和７年 12 月 14 日(日)
午前 10 時～午後 2 時まで

開催場所　四谷の千枚田「ふれあい広場」

皆んなで搗いた餅 シシ汁 焼き肉(鳥長の皮肝…)
五平餅 八雲だんご その他もろもろ

主　催　鞍掛山麓千枚田保存会
協　賛　棚田っ娘＆地域の皆さん ふるさと指導員
　　天空のコンサート ゆかいな仲間たち

表敬訪問

十一月三日、江口愛知県副知事は日頃、千枚田を柱に多岐にわたる活動、協力に愛知県として感謝するとわざわざお越しいただいた。

折角、お越しいただいたお土産に、千枚田の保存継承の難しさ、特に、害獣被害とその対策、森林対策(湧き水の減少、枯渇など)を生の声としていっぱいお持ちいただいた。

副知事さんに「これから、何処へ行くだん…」と聞くと「これから大阪だ…」、「お忙しいのに、わざわざありがとうさま」と、お見送りした。

全国棚田(千枚田)サミット

第三十回全国棚田(千枚田)サミット in 別府～棚田でウエル 想いと願いをコメて～が十一月一日二日、大分県別府市で開催、保存会から田中幸夫、丸地典利、松下 誠、小山舜二が参加した。

サミットには棚田を有する耕作者、自治体など全国の関係者およそ一千人が参加、内成棚田の保全維持活動の報告や、御年九十二歳になられる棚田第一人者の中島峰広先生(二十年前、四谷の千枚田 棚田サミット開催十周年記念シンポジウム:【車座会議】地域の宝 これからの千枚田保存について探る～みんなで語ろう千枚田～にお招きした)によるシンポジウムでは三十回記念として第一回から二十九回までの開催地の棚田の特徴、取り組みなどが紹介された。四分科会のうち保存会の四名は第一分科会「棚田ツーリズムの未来形」に参加、それぞれの知見を得た。

一堂に会した交流会では全国の棚田衆や行政、棚田ファンが意気投合、闊達な意見交換が生され、大きな収穫を得た。

二日目の現地見学は「天間棚田と別府温泉コース」で、豪華な昼食と地獄温泉巡りは忘れがたい。

後日談:畦道で サミットご苦労さま、温泉はよかったかん…と聞かれ、誰も入らなかったよ、と答えたら、そんな馬鹿な、あんな良い温泉に行って…と笑われてしまった。

来年は、浜松市の「久留女木・大栗安・白檮の棚田」で開催予定

校外学習

十月二十八日、市立千郷小学校三年生四十人(引率者二名)は総合的学習「見つけよう！ 新城のステキ」の学習として市内の観光地を巡り、地元の魅力を体感することを目的に千枚田を訪れた。

案内に、千五百万年前の地殻変動(火山活動)で鞍掛山(883m)からの転石を積み上げた「日本三大石積棚田」である。その証拠に積み上げられた石は丸みを帯びている、また、田んぼ全部が一ヵ所から湧き出る「湧き水の棚田」である。ほかに田んぼの生きものなどを説明、子どもたちは興味深々であった。

発　行　令和七年十一月十五日
文　責　鞍掛山麓千枚田保存会
　　小山舜二